

主はその母親を見て深くあわれみ、「泣かなくても良い」と言われた。そして近寄って棺に触れられると、担いでいた人たちは立ち止まった。イエスは言われた。「若者よ、あなたに言う。起きなさい。」

ルカの福音書 7章13、14節

イエス様がナインの町に着くと、ちょうど町から葬列が出てきました。「ある母親の一人息子が、死んで担ぎ出される」ところで

した。母親の悲しみはいかばかりだったでしょうか。「担ぎ出される」という言葉からは、亡くなつてから時を置かずに運ばれた様子が窺われます。ユダヤでは死体は汚れたものとみなされたので、すぐに町の外に移されました。別れを惜しむ時間も十分に与えられず、しかも、愛する息子の亡骸が汚れた

ものとみなされて追われるようにして運び出されることに母親はどれほど寂しさや疎外感を感じたでしょう。

「やもめ」だった彼女は夫に次いで一人息子にも先立たれたことで、経済的にも大きな不安を抱えたでしょう。現代のように福祉制度が整っていない時代です。やもめは厳しい立場でした。

彼女の置かれた状況は察するに余りありません。誰が慰めの言葉を並べても、簡単に解決されるような状況ではありませんでした。

そんな彼女の前でイエス様は棺に触れました。それは自分が汚れたものとみられる行為で、ユダヤではあり得ないことでした。しかしイエス様は彼女に望みを与えるために自らを汚れたものとすることも厭いませんでした。

イエス様は私たちを救い、永遠の命を与えるために十字架に架かり呪われた者となつてくださいました。そして死を打ち破り甦られたイエス様は私たちに永遠の命と天の御国への望みを開いてくださいました。

聖書は私たちに約束しています。すでに天に帰った方々とやがての日に再会できると。やもめが息子と再会したように、私たちも愛する人と主にあつて再会できるのです。それがキリスト者が持つ望みです。(泰)

【報告 消息】

・非常食献品 先日、林良男兄がお仕事の関係から備蓄用の非常食および飲料水を献げてくださいました。非常食の備蓄についてはこれまでに検討されてきましたが、適切な備蓄スペースの確保に課題があるなど進展しませんでした。しかしながら、この春に荻野家が転居したことで5階牧師館に場所を確保でき、このタイミングで林兄よりお話をいただくことができました。災害などが起こらないことを願いますが、いざという時のために備えができました。感謝致します。

・林真光修養生 先週は蒲田礼拝で初めての説教でした。礼拝堂に集まることを再開したこともあり、友人など関係者が数名来会し感謝でした。背後での皆さまのお祈りを感謝します。

神学院は7月末の試験期間を越えると8月、9月と夏季実習期間に入ります。蒲田のほか、各シオンでの奉仕を予定しています。コロナ禍で制約を受けながらの訓練期間ですがすべてが益となるよう続けてお祈りください。

・教会墓地清掃 26日に多磨霊園の教会墓地を掃除しました。ご奉仕された方々に感謝します。

・礼拝出席者数報告 6/27

第1礼拝 21名

第2礼拝 24名

小学科ホザナ礼拝

小 1名 中 2名 高 1名

1カ月半ぶりに礼拝堂に集まることできて感謝します。

・第63回シオン霊修会

日程 9/19(日)〜20(月)

会場 プラザヴェルデコンベンション沼津

(J.R沼津駅徒歩、沼津シオン目の前)

講師 岩上敬人師(JEA総主事、インマ

ヌエル綜合伝道団)

テーマ「キリストのことばを豊かに」

ディスタンスを十分に確保できる大会場、シングル中心の宿泊、オンライン配信などコロナ対応で計画しています。